

3分乾燥印刷法を実演

日本アグファ

油性インキで実現

水が絞れる「アズーラITS」

日本アグファ・ゲバルト(本社・東京都品川区、松石浩行社長)は、6月11日、(株)平河工業社(本社・東京都新宿区、和田和二郎社長)小竹事業所で、「アポジーユーザー会」を開催した。約150人が参加した今回のユーザー会は、UV乾燥装置を使わずに油性インキで速乾印刷を実現する「3分乾燥印刷法」を提唱する(株)東京テックプラス(本社・埼玉県朝霞市)の加藤隆行社長を講師に招き、①そのノウハウを紹介する講演「速乾印刷セミナー」②平河工業社で稼働する菊全判両面兼用8色印刷機での「3分乾燥印刷法」の実演③の2部構成で行われた。実演では、平河工業社が全面的に採用しているアグファ社製の現像レスCTPプレート「アズーラITS」の規則正しい配列の砂目構造が、速乾印刷をする上で必須となる湿し水の量を絞ることに非常に適していることを紹介、スーパーユボ紙への片面4色およびコート紙への両面4色の速乾印刷を披露した。

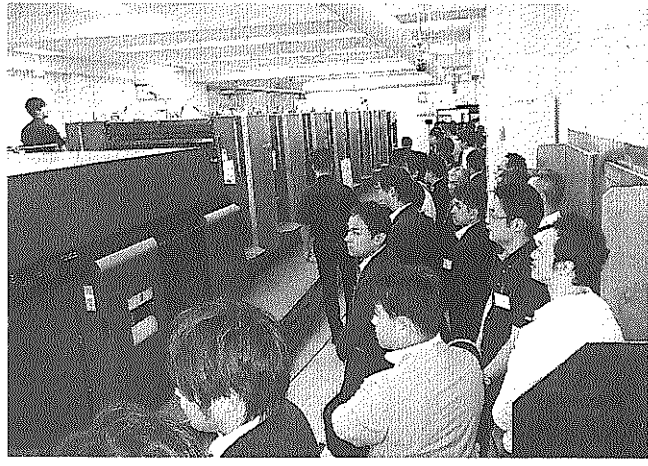
評価をもらい、このよう
な取り組みをすることに
なると、この会の開催背
景を述べた。

「速乾印刷セミナー」と
題した講演では、多くの印
刷会社の技術指導・経営サ
ポートを行っている東京テ
ックプラスの加藤社長が、
自身が提唱する3分乾燥印
刷法について紹介を行っ
た。

加藤社長はまず、印刷業
界の現状について、▽小ロ
ット化・多メディア化によ
る売上減少▽短納期・低価
格化▽資材価格高騰、▽青
たぬ人材—といった問題
を指摘した。

これらの問題の解決策と
して、3分乾燥印刷が有効
であると説いた。3分乾燥
印刷を行うためには、コッ
や勤といったものを非し
教値に基づいた印刷管理が
必要で、その上で、▽適正
濃度での印刷(製版安定性)
▽ローラー調整(インキ転
移性の向上)▽湿し水管理
(印刷安定性) —の3要素
を満たすことが重要であ
ると提示。

そのためには印刷機のメ
ンテナンスが何よりも重要
であることから、日頃から
メンテナンスを自社で行っ
たり、行っていないを推奨。そ
の準備にか



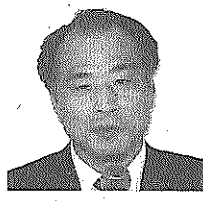
平河工業社で実演した

とを確認後、本刷りを開始。
コート紙については3分程
度、スーパーユボ紙につい
ても10分もかからずに乾燥
できていることを、実際の
印刷物を配布し、来場者に
そのパフォーマンスを示し
た。

平河工業社の和田有史常
務は、3分乾燥印刷を習得
して実力向上を図ったこと
への感想を次のように述べ
た。

「印刷品質に徹底したこ
だわりを持つ当社では、現
像液の状態による品質変化
がないことに着目し、現像
レスCTPプレートアズー
ラITSを全面的に採用して
いる。部分的にアズーラIT
Sを導入してから間もなく
の頃、印刷機のおペレータ
ーから刷りやすいという声
が上がり、また8色機では
3割も水を絞れたという報
告を受け、全面的な採用に
切り替えた。いっそうの高
品質を目指し、今年3月か
ら5-8胴目を使い印刷
を、5-8胴目を使い印刷
のテストチャートをコー
ト紙に、最高速の1万30
00回転で両面4色印刷
—を行った。オペレータ
ーがインキをまったく触る
ことなく印刷をスタート
し、刷り出しから5枚足ら
ずで色出しができています
—と驚かしている。

会の冒頭、あいさつに立
った日本アグファ・ゲバル
トの松石社長は「現像レス
CTPプレートで92%の固
内シェアを占めているアズ
ーラは、発売後しばらくは、
現像不要などによる環境
への優しきという点から大
きな支持をいただけてき
た。しかしその後、複数の
アズーラユーザーから、ア
グファは、自分が売ってい
が、われわれはプレートの
プロではあるものの、印刷
についての細やかな解決法
は提示できない。そこで、
印刷技術コンサルタントと
して高名な東京テックプラ
スの加藤社長に相談したと
ころ、アズーラを使うと印刷
の砂目が浅くてとても
細かいアズーラは、水が絞
れるというだけでなく、速
乾印刷にも適しているとい



松石社長



加藤社長



和田常務

組
業報
議長
若
東
28日
関
算、二
案な
任
では
を承
部、キ
成氏
など
てい
支
い現
て満
選
長は
と結
「工
強め
組合
を合